

令和7年度第1回埼玉県立近代美術館協議会会議録（抄録）

1 開催日 令和7年8月22日（金）

2 時間 午後2時00分～午後4時15分

3 場所 埼玉県立近代美術館3階会議室

4 出席委員 古川 慶子、山田 一文、山田 明子、綱河 信一、青木 恵美子、
大井 教寛、菖蒲澤 侑、田竈 美保、谷口 周子、横山 孝博、
吉野 律

5 欠席委員 寺久保 文宣

6 事務局出席者	特任館長	関 直子
	副館長	岡 裕子
	副館長	平野 到
	総務・管理担当部長	藤川 奈美子
	常設展・収蔵品担当主任学芸員	大浦 周
	教育・広報担当主任学芸員	吉岡 知子
	総務担当課長	高辻 丈二
	総務担当主任	佐藤 耕史

7 教育局出席者 文化財・博物館課 主幹 鈴木 寿明

8 進行の概要

（1）開会

（2）特任館長挨拶

（3）任命状の交付

（4）協議会委員および美術館職員紹介

（5）協議会会長、副会長選出

会長に山田（一）委員、副会長に古川委員が選出された。

（6）会議録署名委員指名

会長から署名委員として綱河委員、菖蒲澤委員が指名された。

9 議事の内容と質疑応答

(1) 報告事項・意見

ア 令和6年度事業報告

事務局から会議資料及び映像を使用して、常設展示事業、企画展示事業、美術作品収集事業、一般向け普及事業、美術館の利用促進事業、子供向け事業、学校との連携、ボランティア活動、「椅子」の有効活用、一般展示室の利用状況、入館者数、決算の概要について報告を行った。

【主な意見・質疑応答等】

委員 MOMAS コレクション、企画展の内容ともに、オリジナリティーがあり、地域の美術館の意識も感じる。埼玉県立近代美術館でないとできない素晴らしい内容の展示である。

委員 企画展の吉田克朗展、木下佳通代展は巡回展であったと思うが、文化庁等に助成金の申請は行ったのか。

事務局 申請は行わなかった。文化庁以外の他の団体でも巡回展に対する助成金の仕組みはあるが、条件が色々とある。過去には、助成の条件を満たせる場合には申請したこともある。

委員 木下佳通代展の観覧者数は1日あたり86人と他の企画展と比べると少ないようだが、原因は何か。広報する上で工夫していることはあるか。

事務局 木下佳通代展は巡回展であり、大阪の中之島美術館が第1会場目、当館が第2会場目であったため、その影響があったかもしれない。広報で工夫した点としては、吉田克朗と木下佳通代はほぼ同じ時代に活動した芸術家ということもあり、吉田克朗展の観覧券を購入した方に木下佳通代展の割引券を配布した。

委員 視覚障害者鑑賞ガイドプログラムについて、たくさんの団体、人数を対応しているように感じるが、このプログラムが認知されている理由は何か。

事務局 埼玉県やさいたま市の協会・団体に情報を発信している。そこから情報を得て興味を持った方が当館に連絡をしてくれており、日程調整等を行ってプログラムに参加していただいている。

委 員 視覚障害者への対応で、「触図」による観賞という説明があったが、「触図」は美術館で作成しているのか。また、聴覚障害者への対応について、手話通訳・文字表示付きギャラリートークを行ったと説明にあったが、「文字表示」とはどのようなものか。

事務局 「触図」は当館で作成したものである。「文字表示」とは、話した言葉がリアルタイムにディスプレイ表示される装置である。美術館がそのような装置を持っているわけではなく、昨年度はある会社が無償で貸与していただいた。今後も継続して実施していきたいので、事業として予算化するなど検討していきたい。

委 員 障害者への対応について、障害の種類、程度も人によって異なっており、大変な部分もあると思うが、職員は誰が対応しているのか。

事務局 全体の調整については学芸員が対応している。現在の担当者は2人配置しており、担当を毎年替えながら、対応や課題を学芸部内で共有できるようにしている。視覚障害者へのガイド解説についてはボランティアである美術館サポーターに協力いただいている。

委 員 アンケート結果について、来館者の満足度が非常に高く驚いている。アンケート調査はどのように行っているのか。

事務局 MOMAS コレクション、企画展のそれぞれの出口で紙のアンケート調査を行っている。コロナ禍はQRコードでアンケートをとっていたこともあったが回答率が低かった。アンケート内容については、展示の内容が面白かったという意見を多数いただいている。

委 員 情報発信について、Youtubeの更新回数が0回となっているが、コロナ禍に作成した動画を掲載したままという状態か。また、X、Facebookは利用しているようだが、Instagramを活用した情報発信は考えていないのか。

事務局 Youtubeは更新できていない。近現代以降の展示の場合、著作権上の問題があり難しい状況がある。Instagramは当館で発信はしていないが、埼玉県庁の広報アンバサダーの方にInstagramで当館の情報を発信していただいている。

委員 集客するためには、どの年代に向けてどのような広報を行うのかが大事である。若い人と高齢の方では有効な広報方法が異なる。若い人向けには、インフルエンサーに依頼して、展覧会を観てもらい、その情報を発信してもらう方法も有効だと考える。

委員 広報や Instagram の発信など、情報発信を外部に依頼することについて、美術館で検討したことはあるのか。

事務局 予算面で難しい状況がある。以前、予算があるときは、有効な広告媒体に展覧会情報は発信することはあった。内側からだけでなく、外側の視点から発信する方法についても考えていきたい。

委員 子供向けの事業、障害者向けのプログラムなどが充実していると感じる。イギリスの美術館などでは、絵画を見ながら昔を回想し、仲間で会話をすることで認知症予防に利用されているという話を聞いたことがある。高齢者向けの事業は何か考えているものはあるか。

事務局 現在、高齢者向けに特化した事業は予定していない。以前は 65 歳以上が無料であったため、気軽に来館しやすかったが、有料となって以前ほどは来館されなくなったかもしれない。今後は委員からの意見も踏まえ、事業の中に組み込めるか考えていきたい。

委員 若年層に来てもらうことも重要である。以前に来館した時も、子供や高齢者が目立った。若者との連携という面で、埼玉大学以外との連携や高校生との繋がりといったものは何かあるか。

事務局 高校生との繋がりとしては、一般展示室で高校美術展を開催しているときは、高校生に美術館の展覧会も無料で観覧できるよう減免措置を行っている。

委員 自分の美術館では、高校生観覧料無料デーを設けており、大変人気で多くの高校生が来館する。企画展によっては高校生を無料にしているものもある。高校生観覧料無料デーを設けてみるのも良いのではないか。

委員 自分が属している団体で、以前に近代美術館で普及スタッフの方にレクチャーをしてもらい研修を行ったことがある。色々な椅子に座り、自分に合う椅子を探すというものがあったが、椅子だけでこのようなプログラムができるのかと感心した。また、親子で遊べるプログラムも教えてもらい、大変楽しく役に立つ研修であった。とても感謝している。

イ 令和7年度事業実施状況

事務局から会議資料及び映像を使用して、常設展示事業、企画展示事業、美術作品収集事業、一般向け普及事業、美術館の利用促進事業、子供向け事業、学校との連携、ボランティア活動、「椅子」の有効活用、一般展示室の利用状況、入館者数、予算の概要について報告を行った。

【主な意見・質疑応答等】

委員 若年層を取り込みたいとのことだが、大学で学生達に何かを宣伝する際には、教員が授業などで直接伝えることが有効だと感じている。中学生・高校生に対しては、先生に広報役になってもらうのも良いかもしれない。先ほどの話にも出たが、観覧無料デーなどがあるととても宣伝しやすいと感じる。

委員 自館は市の施設だから可能だったかもしれないが、この夏の企画展のパンフレットを市内の小学校5、6年生及び中学生全員に配布した。そうしたところ、親子で来館される方が多かった。高校生の場合、1人1台タブレット端末を持っていると思う。例えばソカロの電子データを端末に配信するなどでできれば良いと思う。

委員 高校生にInstagramを作ってもらったり、小中高の先生方にもっと美術館利用の研修を行ったりしても良いのでは。課題で美術館に行ってみて、もっと行きたくなる仕掛けづくりが必要。

委員 自館で小中学生に音声ガイドを作ってもらったワークショップを行ったが、結構面白いものができて良い企画だったと思う。そういった取り組みを行うことで、高校生以上の年齢になっても美術館とつながりを持てるのでは。

ウ 博物館評価について

事務局から会議資料を使用して、令和6年度及び令和7年度の博物館施設「目標設定・評価シート」について説明を行った。

【主な質疑応答】

委員 達成度が2になっているものの中で外国語表記に関するものが2つある。実際に外国語表記を必要としている方がいて、困っているという意見を聞いたことはあるのか。

事務局 具体的な人数は把握しにくいですが、海外からの来館者は、以前より増えている。基本的なサインは外国語対応しているが、展示資料やイベント資料などまでは行えていない。

委員 自館も観光客が増えており、色々な国の方が増えている。すべての言語に対応するのは難しい。スマホアプリなどを活用して対応できると良いなと思っている。全館共通項目なので内容を変えるのは難しいと思うが、柔軟に対応しても良いのではないかな。

事務局 オリパラの頃から、博物館施設全体でインバウンドに対する対応を高めていこうという機運の中で、全館共通項目として設定されている側面がある。館によって需要がどの程度あるのかなど差があると思うので、この項目に関しては当館としても意見を言っていきたい。現状、当館ではトイレ等の音声ガイダンスができていないので、できるだけ取り組んでいきたいと考えている。

委員 資料収集に関して達成度が2となっており、作品購入が困難となっている。予算面というところが大きいと思うが、美術館だけでなく埼玉県として解決していかなくってはならない事ではないか。現場からしっかりと要望していくことが大事。例えば、若者を呼ぶための教育プログラムに必要であるとか、事業とパッケージしてアピールできると良いのではないかな。

事務局 担当課と連携しながら、財政課などに話をして進めていきたい。

委員 ユニバーサルデザイン化への取り組みの達成度が2になっているが、予算が必要な項目だと思うのでしっかりと必要性を説明して予算要求をしてほしい。前半で話のあった、視覚障害者や聴覚障害者への対応は引き続き行っていただきたい。今年はデフリンピックもあり、そういった機運が高まっている。ぜひ予算を確保して継続していただきたい。

委員 令和6年度事業について大変よく工夫されている印象である。入館者数も増えており、事業が充実している成果だと感じる。子供への教育的側面からよく練られた事業も多く、継続して行っていただきたい。

委員 館別独自項目の部分で項目「授業協力」は150%達成しているのに対し、項目「学校利用」は87.5%の達成率である。学校が外に出ていきにくい状況だと推測する。学校の先生方も忙しく、自分達で企画する余力等がないので、学校に来てもらう授業協力の数値の方が高いのかもしれない。

委員 常設展観覧者数が増えているのは非常に素晴らしいことだと思う。コレクション展の人数が増えるには、良いコレクションを持っていること、それを生かす学芸員の企画力が必要である。そういう意味でも、寄託等に頼るのではなく、新規作品を購入するための購入予算の確保が改善すべきところである。埼玉県美術館として収集しなくてはいけない美術作品を逃さないためにも、購入していくための予算を用意しておくことは重要なことである。この点を強く要望する。

エ その他

事務局から資料に基づき、クラウドファンディングについての報告を行った。

(以上)